

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> X(旧Twitter): @sairingi

令和6年度 公益社団法人埼玉県臨床検査技師会 臨時会員総会が開催される

令和6年度公益社団法人埼玉県臨床検査技師会臨時会員総会は令和7年3月14日(金)にRaiBoC Hall(市民会館おおみや)小ホールで開催された。本理事会員総会の議案審議内容は、公益社団法人埼玉県臨床検査技師会の令和7年度事業計画案と令和7年度収支予算案であった。

総会は濱本隆明事務局長の司会進行により行われた。はじめに松岡優会長の挨拶が行われ、参加された会員の皆様の日頃のご協力に感謝の意を表された。続いて名誉会員の原繁一氏、津田聡一郎氏の紹介があった。

議案審議に入る前に出席者から矢作強志氏(川口市立医療センター)が議長に任命され、矢作議長より総会役員が指名された。資格審議委員長に佐瀬勝也理事(東松山医師会病院)、資格審査委員には東部地区から久保田亮氏(埼玉県立大学)、南部地区から神嶋敏子氏(埼玉県立小児医療センター)、西部地区から伊藤隆史氏(医療法人明晴会西武入間病院)、北部地区から原誠則氏(壮幸会行田総合病院)が任命された。また、書記には田口莉央氏(越谷市立病院)と岩井奈摘美氏(さいたま市立病院)が、議事録著名人には、野本伊織氏(埼玉県済生会川口総合病院)と鶴岡慎悟氏(JCHO埼玉メディカルセンター)が任命された。

審議前に矢作議長は、「本日18時30分現在の出席者数は61名、委任状出席者数1,922名、議決権行使書数488名で、合計2,471名となる。この数は第一号から第二号議案を審議するための必要者数である3月3日現在の全員会員数3,617名の過半数を超えており、定款第18条の規定により本総会が成立する。」と宣言された。(議会の出席者確定人数は70名で合計2,480名)

議事審議は佐瀬議事運営委員長より議事日程が提案され、それに従い矢作議長の進行により開始された。臨時会員総会の第一号議案である令和7年度事業計画案について松岡会長、猪浦一人副会長、山口純也副会長から説明があり、また第二号案である令和7年度収支予算案が神戸孝裕会計部長より提案された。両議案とも質疑応答はなく、議決権行使書488名中、反対0名で、出席者拍手多数により承認された。以上をもって、総会役員、書記が解任となり臨時総会は閉会した。

総会は、矢作議長の円滑な議事進行と出席していただいた会員の皆様のご協力により滞りなく開催できた。矢作議長、総会役員ならびに会員の皆様に深謝する。

追記 今回、総会に先立ち昨年12月8日に開催された第52回埼玉県医学検査学会の優秀発表賞・学会長特別賞・埼臨技奨励賞の表彰は久保田亮理事の進行で行われ、14名の方が受賞された。受賞された皆様には謹んでお祝いを申し上げたい。また、総会終了後、第53回埼玉県医学検査学会の滝沢義教学会長より学会の案内があり、学会実行委員の紹介と学会参加や演題募集などの協力についてのお願いがあった。

○優秀発表賞

- 西川 龍馬 (医療法人社団愛友会 上尾中央総合病院)
- 濱本 隆明 (防衛医科大学校病院)
- 矢部 七海 (獨協医科大学埼玉医療センター病理診断科)
- 軍司 雅代 (埼玉済生会川口総合病院)
- 枝澤 燎 (さいたま赤十字病院)
- 村山 優大 (小川赤十字病院)
- 小林 要 (医療法人社団愛友会 上尾中央総合病院)

○学会長特別賞

- 布施川 岳人 (さいたま市民医療センター病院)
- 相澤 美栄子 (AMG 医療法人社団愛友会 伊奈病院)
- 長谷川 ゆみ (獨協医科大学埼玉医療センター超音波センター)

○埼臨技奨励賞

- 松浦 帆花 (埼玉医科大学 保健医療学部 臨床検査学科)
- 小池 悠太 (日本医療科学大学)
- 川野 翔哉 (大東文化大学 スポーツ・健康科学部 健康科学科)
- 後藤 美楓 (埼玉県立大学 健康開発学科 検査技術科学専攻)

(文責：藤原美香)



受賞者の皆さん

第53回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

開 催 日 : 2025 (令和7) 年12月7日(日)

開 催 場 所 : ソニックシティ

テ ー マ : ホップ ステップ ジャンプ

サブテーマ : ~ 飛躍する未来に向けて、今学ぼう ~



~ 飛躍する未来に向けて、今学ぼう ~

【事務局より】

第53回埼玉県医学検査学会の事務局長を務めさせていただきます、八潮中央総合病院の間中樹里と申します。

第53回学会のテーマは「ホップ ステップ ジャンプ」です。会員の皆様と共にステップアップ、ジャンプアップできる場となるよう、瀧沢学会長、野本実行委員長を中心とした学会運営が始まっております。会員皆様のニーズに応える多数の学会企画が検討されていますのでご期待ください。また近日中に学会公式HPの案内をさせていただきます。学会情報を定期的に配信いたしますので、ぜひ閲覧していただけますと幸いです。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

(文責 : 第53回埼玉県医学検査学会 事務局長 間中樹里)

【学術部より】

このたび、第53回埼玉県医学検査学会の学術部長を務めさせていただきます、学校法人明星学園国際医療専門学校の高橋俊と申します。今年度の本学会のテーマのように、未来へ向けて一歩ずつ成長し、飛躍するための学びを提供する場となるよう企画を進めております。最前線で活躍する専門家による講演を通じて、最新の知見や技術を学ぶ機会を提供するとともに、一般演題発表を通じて日々の業務や研究の成果を共有する場を設けています。ぜひ、本学会にご参加いただき、ともに学びを深め、未来へ向けて一歩踏み出しましょう。本学会が、参加される皆様にとって新たな知識を得る場となり、さらなる飛躍につながる機会となることを願っております。

いよいよ、令和7年5月1日より一般演題の募集を開始いたします。今月号では演題申し込み方法についてお知らせいたします。

1. 演題申し込み資格

- 1) 筆頭発表者は今年度の埼臨技会費を納入した方 (以下、会員) に限ります。
- 2) 共同発表者は原則として7名以内とします。
- 3) 非会員の共同発表者がいる場合は学会事務局にご連絡ください。

※なお、学生の発表については上記資格を問いません。

2. 演題・抄録の申し込み方法

1) 会員の方

- ・日本臨床衛生検査技師会（JAMT）会員専用ページよりログインし、演題・抄録登録を行なってください。

※第53回埼玉県医学検査学会ホームページからJAMTにリンクできます。

※ログイン時に会員番号とパスワードを使用します。

- ・一般演題の抄録は、抄録テンプレートをういて作成し、抄録ファイルをアップロードしてください。

※抄録テンプレートは、学会ホームページからもダウンロードできます。

- ・一般演題、学生演題の本文は26文字×18行×2段=936文字以内です。
- ・句読点は「、」（読点）と「。」（句点）または「，」（カンマ）と「.」（ピリオド）を用い、それぞれが混在しないように使用してください。
- ・演題、抄録登録（変更）時にJAMTより「受領メール」が自動送信されます。受領メールが届かない場合はメールアドレス、登録手順をご確認ください。数日経過しても届かない場合は、お早めに学会事務局へお問い合わせください。

2) 学生の方、賛助会員の方（コマーシャル演題）

- ・演題申込書、抄録テンプレートを第53回埼玉県医学検査学会ホームページからダウンロードし、必要事項を記入および作成した抄録ファイルを学会事務局へ電子メールで送付してください。

- ・「受領メール」は演題・抄録受付後に学会事務局から後日返信いたします。

3. 演題・抄録

受付開始日：令和7年5月1日（木）

演題・抄録締切日：令和7年7月18日（金）

※演題・抄録の締め切り日の延長は、原則として行いません。

4. 発表方式

パソコンを使用したスライド投影の口演形式で行います。

5. 申し込み演題の採否

- 1) 採否については実行委員会に一任願います。
- 2) 採否の結果については、後日電子メールにて通知いたします。

6. 問い合わせ先

第53回 埼玉県医学検査学会 実行委員会事務局 事務局長 間中樹里

上尾中央医科グループ 八潮中央総合病院 検査科

〒340-0814 埼玉県八潮市南川崎845 E-mail : juri.manaka@yashio-cgh.jp

(文責：第53回埼玉県医学検査学会 学術部長 高橋俊)



(実行委員会の様子)

埼臨技リーダーシップ研修会報告

テーマ：埼臨技リーダーシップ研修会 ～検査技師の多様性と可能性～

令和7年2月15日(土) 埼臨技リーダーシップ研修会がソニックシティにて開催された。講演は神戸翼氏より「ボードゲームで楽しく学ぶ、臨床検査技師の未来の多様性」と題し、グループワーク形式(4名1組)にて進行され、ウェルビーイング(幸福度)の向上をめざす・体験することを目的として取り組んだ。以下、参加者からの感想を掲載する。



深谷赤十字病院
白石 将也

2月15日にソニックシティにて開催された埼臨技リーダーシップ研修会～検査技師の多様性と可能性～に参加しました。

当研修では、臨床検査×わくわくプロジェクトにて発足されたボードゲームを使用し、グループワークを通じてゲーム内で自らのキャリアを構築していくという内容でした。ターン毎に1年のキャリアが経過していくという設定のもと、ゴールに設定されたウェルビーイングに向けて「健康」「金」「信頼」の3本の柱をどのように成長させていくか、手札のカードから選択し成長させていくというもので、学生時代に嗜んだカードゲームで遊ぶような感覚で終始楽しく研修に参加することができました。



研修を通じ、一括りに臨床検査技師といっても様々な活躍の仕方があること、キャリアアップのために様々な体質(ネットワーク体質・学び体質等)を形成していくことの重要性を学びました。また、運を引き寄せる力も重要であると講師の神戸氏からの言葉が印象に残り、様々な場に足を運び、チャンスに巡り合う機会を増やすことの重要性にも改めて気づくことができました。

このゲームは、行う度に毎回違ったキャリア形成のパターンを考えることができるため、繰り返し使用することでより検査技師の多様性について学べるものだと感じました。またこのような機会があった際には是非参加したいと思います。貴重な機会をありがとうございました。

戸田中央総合病院
小曾根 江美

2月に開催された「埼臨技リーダーシップ研修会」に参加しました。リーダーシップ研修と聞くと、真面目で一方向的に講義を聞くイメージをしていましたが、今回はボードゲームで楽しく学ぶという記載をみて参加しました。期待通りに、臨床検査技師をベースとしたリーダーシップの発揮方法を、ボードゲームを通して学ぶことができました。この先、リーダーシップを発揮するために、臨床検査技師には様々な未来や可能性があることを実感しながら、ステップアップする大切さ、そのために重要なこと・必要なことを考えるととても良い機会になりました。さらにグループワーク形式で行うことにより、新しい視点や考え方を学ぶことができ、とても「面白い」「楽しい」と感じることができました。またリーダーシップに大切なコミュニケーション能力も、ゲームを行う中で高めることができましたと思います。



今回行ったボードゲームでの学びを職場で実践し、楽しみながら学ぶということを伝えたいと思いました。そして後輩のモチベーションアップにも繋げていきたいです。今後さらに視野を広げ、様々な環境で活躍できるように努力をしていきます。



青年部委員会 研修会報告

私のワンランクアップ術 ～ 人道・博愛の赤十字精神で学んだ5年間 ～

令和7年2月21日(金)19時より青年部委員会研修会が開催された。枝澤燎氏(さいたま赤十字病院)より「赤十字病院に入職から5年の経験談 ～無理はせず一歩ずつ～」、西川文乃氏(深谷赤十字病院)より「新人技師から頼れる先輩技師へ ～5年間働くなかで心掛けてきたこと～」、石丸直氏(さいたま赤十字病院)より「私のお薦めスキルアップ術 ～学会に参加するメリット～」の講演があった。以下、青年部委員からの感想を掲載する。

株式会社アムル 上尾中央臨床検査研究所

甲田 磨椰

今回は臨床検査技師としてのスキルアップをテーマに、「私のワンランクアップ術」と題し研修会を開催した。赤十字病院に勤務する3名の講師から、臨床検査技師として5、6年働いてきた経験を基に、各々が考えるワンランクアップ術の紹介があった。

枝澤氏からは1～5年目にあった出来事について詳しく説明があり、若手検査技師にとって参考になる1つの道標になる講演であった。また部署異動について、全く異なる分野に携わることになっても、異動前の業務内容を活かすことで、異動先の部署での業務改善をおこなうといった貴重な経験談もあった。西川氏からは臨床検査技師として心掛けてきたことや、先輩として後輩指導をする際の意識・動き方についての紹介があった。「巡ってきた機会は全てチャンスと受け取る」ことは、スキルアップをめざす多くの人に持ってほしい考え方である。石丸氏からは学会に参加すること、発表することのメリットについての講演があった。学会発表をすることだけでなく、発表にたどり着くまでの過程においても学びが多くある。発表することが難しい場合は、参加するだけでも多くの情報を取り入れることができるため、この講演をきっかけに学会を訪れてほしい。

3名の講師によるそれぞれのスキルアップ術は、自分の経験とはまた異なるものであり、同じ臨床検査技師5、6年目としても非常に参考になる講演であった。赤十字病院ならではのものもあり、すべての人に同じような経験ができるわけではないが、取り入れられる内容は今後の業務に活かし、かつ自分のワンランクアップに繋げていきたい。

研究班研修会報告

テーマ 令和6年度一般検査スライドセミナー

主催 一般検査研究班

実施日時：2025年1月22日 19時00分～20時00分

会 場：Web開催 教科・点数：専門教科－20点

講 師：織田 喜子（国家公務員共済組合連合虎の門病院）

参加人数：会員45名

出席した研究班班員：藤村和夫 柿沼智史 渡邊裕樹 小針奈穂美 織田喜子 松本実華
福島明音 林達矢

研修内容の概要・感想など

今回の研修会は「令和6年度一般検査スライドセミナー」のテーマのもと織田氏を講師にWebにて開催した。

前半は、尿沈渣中に出現する細胞の特徴や由来の説明があった。まず、赤血球では非糸球体型赤血球と糸球体型赤血球の形状の説明があり、両者の鑑別には内腔の凹みの割合をしっかりと観るようにとのことであった。また、非糸球体型赤血球の由来は腎前性・腎後性で尿路や生殖器出血が主であり、糸球体型赤血球の由来は腎性で腎そのものの疾患が主であると説明があった。白血球では、好中球・リンパ球・単球・好酸球と白血球分画ごとの出現する背景の説明がされた。尿細管上皮細胞のうち、線維型、洋梨・紡錘型は糸球体病変や尿細管病変で上皮細胞の脱落や円柱の再疎通が原因で上皮細胞を巻き込んで出現する。線維型、オタマジヤクシ・ヘビ状は、尿細管障害、慢性腎炎、腎不全などで閉塞や拡張が起こり、尿細管腔の上昇に伴い上皮細胞が圧迫されて機械的に伸長し、尿中へ脱落し出現する。円形・類円形型は再生性の変化であり、剥離した尿細管上皮細胞が出現する。それぞれ模式図を用いて特殊型の生成機序を非常に分かりやすく説明された。尿路上皮細胞は、表層、中層～深層ごとの形態的特徴の説明がされ、表層から中層～深層型へ移行するにつれて細胞質が小型になりN/C比が大きく見え、悪性細胞との鑑別が重要であるとのことであった。扁平上皮細胞は、表層、中層～深層ごとの形態的特徴の説明がされ、エストロゲン治療や放射線治療時には奇妙な形状や大型化、多核化が認められる場合があり、尿路上皮細胞と同様に悪性細胞との鑑別に注意が必要とのことであった。円柱類は、模式図を用いて円柱生成の過程や成分円柱形成の過程、及び円柱の判定基準や形態学的特徴と各種円柱の出現する病態が説明された。塩類・結晶類は、日常業務で遭遇することの多い通常結晶の形態学的特徴や溶解試験の結果が説明された。その他の成分としてヘモジデリン顆粒や、精液成分、糞便のような混入物も認められるとのことであった。悪性細胞では着眼ポイントがあげられ、あらかじめ出現パターンを認識し、組織型別に、形態学的特徴をとらえておくことと、核を中心とした観察のほか、集塊状・孤在性・結合性などの鑑別ポイントを押さえておくことも重要とのことであった。

後半は、全50問の尿沈渣画像を1問20秒の五肢択一式で参加者に考えていただき、問題提示後に解答と解説が行われた。赤血球、白血球、酵母、上皮細胞類、円柱類、塩類・結晶類、混入物（糞便、精液成分）、異型細胞、マルベリー細胞など前半で説明のあった沈渣成分を余すところなく確認できるように幅広く出題された。

解答・解説では、前半で説明のあった形態学的特徴や鑑別ポイントをふまえながら進められた。前半で学習したことを画像で確認し、分かりやすい解説で復習ができた。

尿沈渣検査は施設の規模に関わらず、広く実施されている検査である。しっかりと沈渣中に出現した成分の分類をし、見落としなく正しい検査結果を臨床に報告する。また、異型細胞を見極めるためにもまずは正常細胞の特徴をしっかりと理解することが重要であると再確認できる内容であった。

（文責：松本実華）

テーマ **初級者向け 腹部エコーハンズオンセミナー**
～ 少人数制で安心！ 日頃の悩みや不安を解決しよう！～

主催 生理検査研究班

実施日時：2025年2月2日 13時00分～16時30分

会場：BearMedi事務所 教科・点数：専門教科－20点

講演 1：講義

講師 1：間中 樹里（医療法人社団協友会 八潮中央総合病院）

講演 2：ハンズオン

講師 2：間中 樹里（医療法人社団協友会 八潮中央総合病院）

参加人数：会員8名

出席した研究班班員：間中樹里 南雲涼太

研修内容の概要・感想など

今回は初心者を対象とした腹部エコーハンズオンセミナーをおこなった。講師1名、被験者1名、受講者6名、超音波検査装置1台の少人数で開催した。講師は超音波検査士4領域をもつ間中氏が務めた。

研修会のはじめは、基本断面や検査のポイント等、スライドを用い講義をおこなった。講義は受講者の悩みを共有しながら、時折意見を聞きながら進行した。

講義の後はメインのハンズオンセミナーに移った。各臓器の観察ポイントや陥りやすいパターンなど丁寧に指導していた。進行していくうちに受講者同士でもコミュニケーションをとる場面も多く見られ、全員で上達しようとする雰囲気を感じられた。間中氏の「きれいに画像を撮ることにとらわれて、疾患を見逃すのでは良くない。同じ時間内でおこなうのであれば観察に重点を置くべき」という内容は受講者への重要なメッセージであったと感じる。内容が非常に充実しておりすべての腹部臓器を網羅することはできなかったが受講者の撮像技術や腹部エコーへの姿勢に大きくプラスになる研修会であった。

今年度、生理検査研究班では4回の超音波検査のハンズオンセミナーを開催することができた。領域は心臓2回（基礎・3Dエコー）・泌尿器1回、腹部1回と多領域におよび参加者に有意義なものになったと感じる。一般的に民間のハンズオンセミナーは2万円程度であることを考えると5,000円という低価格で開催できたことも技師会でおこなう意義を大きく感じた。

今年度の生理検査研究班主催の研修会は今回が最後であった。来年度以降も会員の利益になるような研修会を開催できるよう努めていきたい。

（文責：南雲涼太）

テーマ **症例検討会 ～ あなたの施設でも遭遇する恐れあり～**

主催 一般検査研究班

実施日時：2025年2月5日 19時00分～20時00分

会場：Web開催 教科・点数：専門教科－20点

講演 1：症例1

講師 1：渡邊 裕樹（埼玉医科大学総合医療センター）

講演 2：症例2

講師 2：山田 晃聖（獨協医科大学埼玉医療センター）

講演 3：症例3

講師 3：林 達矢（地方独立行政法人埼玉県立病院機構埼玉県循環器・呼吸器センター）

参加人数：会員62名

出席した研究班班員：藤村和夫 柿沼智史 渡邊裕樹 小針奈穂美 織田喜子 松本実華
福島明音 林達矢

研修内容の概要・感想など

今回のWebによる研修会は、3名の講師による毎年恒例となっている症例検討会であった。

症例1では、渡邊氏より、多発性骨髄腫の患者の尿沈渣中に形質細胞を認めた症例について

報告があった。多発性骨髄腫は、骨髄において異常形質細胞が増殖する疾患であり、尿中ではBence Jones蛋白が排出されることによる尿蛋白定性値と尿蛋白定量値の乖離や、尿沈渣中に毛玉状・イクラ状のろう様円柱が出現することで知られている。

今回の症例では、尿沈渣中に非上皮性の腫瘍細胞を認めたことから、MRI検査や膀胱内視鏡検査による画像診断、膀胱腫瘍から組織診断が行われ、膀胱内に腫瘍細胞の浸潤が確認された。また、形質細胞マーカーであるCD138も陽性であったことから、膀胱形質細胞腫であると診断された症例であった。多発性骨髄腫が関連している膀胱形質細胞腫はこれまでに報告例が少なく、非常に珍しい内容の話であった。

症例2では、山田氏より、混濁尿から腎疾患を鑑別した症例について報告があった。腎疾患にはとても多くの種類の疾患があり、病変部・原因・経過など様々な分類がされている。

今回の症例では、尿沈渣中に糸球体型赤血球を認めたことから糸球体疾患を考え、血尿・高度蛋白尿を認めたことからネフローゼ疾患を疑い、関連する疾患について検査データから推測したが、典型的な症例はなかった。そこで腎生検を実施したところ、糸球体にC3という補体が沈着しており、膜性増殖性糸球体腎炎の1つであるC3腎症であった。検査データから腎疾患を鑑別していくまでの流れや考え方がとても分かりやすい内容であった。

症例3では、林氏より、尿沈渣中にマルベリー小体を認めた症例について報告があった。マルベリー小体は、 α -ガラクトシダーゼAが欠損または活性低下することで不要な糖脂質が蓄積し、全身に様々な症状を引き起こすファブリー病で観察される遺伝性の疾患である。マルベリー小体は、灰白色で渦巻状の脂肪顆粒である桑の実に似た細胞を呈することから鑑別される。しかし、多くの施設では尿沈渣自動分析装置を使用しており、マルベリー小体は非常に小さい成分も存在し、出現数が少ないことから検出することは難しいとされている。また、尿沈渣像は背景がきれいで、尿蛋白定性(-)の場合が多い。そのため、目視鏡検での確認が必要となり、診療科との連携が保たれていることが重要な疾患である。また、脂肪顆粒、真菌、シュウ酸カルシウム(ビスケット状)など類似する成分との鑑別も重要である。

今回の症例では、目視鏡検でマルベリー小体を認めたことから遺伝子検査を行ったところ、 α ガラクトシダーゼ遺伝子に変異があり、ファブリー病と診断された。

日常の尿検査において、色調や検査データ、尿沈渣の出現成分など様々な視点から腎疾患を考え検査を行うことの重要性を再確認することができた。

また、尿沈渣中に認めた細胞をきっかけに臨床診断に繋がる症例もある。異型細胞の場合は早期発見・治療により予後に大きくかわる可能性もあるため、自らのスキルアップを目指し、業務に活かすことが診断や治療につながると再認識できた内容であった。

(文責：小針奈穂美)

テーマ COVID-19と検査法 The 抗原 ～ まだまだコロナ ～

主催 血清検査研究班

実施日時：2025年2月13日 19時00分～20時00分

会場：ソニックシティビル 905会議室 教科・点数：基礎教科-20点

講師：森 圭介 (一般社団法人浦和医師会メディカルセンター)

参加人数：会員12名 賛助会員1名

出席した研究班班員：渡邊剛 山本晃司 岡倉勇太 飯山恵 森圭介 吉田萌香 深田愛

研修内容の概要・感想など

今回の講演はCOVID-19について検査のGold Standard、変遷、これからの検査方法まで幅広い内容であった。

検査法のGold Standardとは診断や評価の精度が高いものとして広く容認された手法である。埼玉県医師会臨床検査精度管理調査において腫瘍マーカー・ホルモン検査はCLIAの使用率が最も高く、次いでCLEIA、ECLIAである。一方感染症検査において梅毒(脂質抗体、TP抗体)はラテックス比濁法の使用率が多く、肝炎ウイルス定性ではCILAとイムノクロマト法が同程度で多く、精密法ではCLIA、CLEIA、ECLIAの順で多い。このようにウイルス検査では各施設の状況によっても異なるため、何をGold Standardとするかは柔軟な考えが必要である。

COVID-19の検査方法は大きく3種類（PCR検査、抗原検査、抗体検査）があり、PCR検査、抗原検査は現時点の感染の有無を判断し、抗体検査は主に過去の感染の履歴を確認のために用いられる。講演では各検査について詳細な説明があった。

COVID-19は2019年末のパンデミックから始まり2020年1月に国内初の新型コロナウイルス陽性者が報告された。その後、第1波から第8波の発生を経て2023年5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類感染症となった。講演ではこの変遷とともに診療体制および検査法がどのように変わったかの説明があった。

第5類感染症となって以降、検査に求められるものが「発見」から「治療」に移りつつある。また、イムノクロマト法試薬の市販化により専用機器を使用しなくても検査が可能となった。そのため、講演では抗原定性検査が検査法のGold Standardになるのではないかとの見解もあった。

このようなパンデミックから感染対策のみならず、検査に求められることや検査法の選択、これからの検査のあり方について考えるきっかけとなった講演であった。

（文責：岡倉勇太）

テーマ Let's 供覧 — 胆汁・膵液の運用について —

主催 細胞検査研究班

実施日時：2025年2月14日 18時30分～20時00分

会場：浦和コミュニティセンター 第13集会室 教科・点数：専門教科—20点

講演1：当院における消化器領域の細胞診運用について

講師1：中村 香里（川口市立医療センター）

講演2：当施設における胆汁・膵液の運用について

講師2：中田 麻美（株式会社アムル 上尾中央臨床検査研究所）

講演3：アンケート調査集計結果

講師3：船津 靖亮（株式会社 正和ラボラトリー）

参加人数：会員47名

出席した研究班班員：鶴岡慎悟 船津靖亮 急式政志 野本伊織 猪山和美 稲山拓司

小川弘美 並木幸子 加藤智美

研修内容の概要・感想など

Let's 供覧!!と題された本研修会は、10年以上にわたって企画・運営されており、今回は消化器領域の胆汁や膵液をテーマに開催した。胆汁や膵液は各施設での運用方法が異なり、多種多様な方法で実施されていることから、標本作製方法などの標準化が課題となる領域である。そこで、一般病院や検査センターの講師を招聘し、それぞれの運用方法や課題について講演していただいた。加えて、県内施設の実施状況を把握するため、事前に病理細胞診を行っている県内各施設にQRコードを印刷した案内文を配布し、施設回答と個人回答を分けてアンケート調査を実施した。

講演1では、中村氏より一般病院における検体処理の実際や、それに伴うピットフォールについて解説がなされた。特に、LBC法の導入により標準化が進み、細胞判定の精度向上が確認されたことが示された。講演2では、中田氏より検査センターにおける胆汁・膵液の運搬から標本作製方法、それに伴う問題点について説明がなされた。多数の施設から検体が集まる環境では、標本作製が重要であることが強調された。講演3では、船津氏より事前に実施したアンケート調査の結果をもとに、詳細な分析結果が示され、施設ごとの回答結果のばらつきが明らかとなった。特に、本領域における標本作製法や診断手法の多様性が浮き彫りとなり、LBC法への関心が極めて高いことが確認された。さらに、LBC法の導入を検討している施設が増加していることが示された。

本研修会を通じて、胆汁・膵液の細胞診における運用方法や課題が共有され、特にLBC法の導入に関する関心の高さが明らかとなった。LBC法の導入に際しては、既存の細胞像との比較や標本の品質評価を慎重に行う必要がある。また、本研修会で得られたアンケート結果は、県内の胆汁・膵液細胞診の現状を把握する貴重な資料となり、今後の標準化の議論に役立てられることが期待される。

（文責：鶴岡慎悟）

**令和6年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第13回 理事会議事録**

日時：令和7年3月6日(木) 19時00分より

場所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項
Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出席：松岡 猪浦 山口 濱本 西田 三木
佐瀬 藤原 塚原 神嶋 長谷川
神戸 小林 工藤 久保田 長岡
原 土田

(監事)遠藤

Zoomにて出席

(理事)網野

欠席：(理事)阿部 笛木 伊藤

(監事)細谷

本日の理事会の出席者は20名であった。理事の出席者は19名で、現在22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。議長は、定款第32条第1項より、松岡優会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告

(令和7年2月12日～令和7年3月5日)

2月13日(木)令和6年度第12回理事会：

松岡、猪浦、山口、濱本、西田、
三木、佐瀬、網野、伊藤、藤原、
塚原、神嶋、笛木、長谷川、神戸、
小林、工藤、長岡、久保田、原、
土田、遠藤、細谷

2月15日(土)埼臨技リーダーシップ研修会：

塚原、神戸、濱本

2月19日(水)役員候補者推薦委員会：

山口、濱本

2月21日(金)青年部研修会：塚原

2月23日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉県
032)：猪浦、三木、藤原、伊藤、
工藤、土田、佐瀬

2月27日(木)検査室管理運営委員会研修会：

塚原

3月1日(土)会計部作業：小林

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

- 1) 2月19日(木)令和6年度役員候補者推薦委員会を開催した。(別紙資料1)

2 総務部

- 1) 2月23日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉県032)が開催された。(別紙資料2)
- 2) 3月4日(火)令和6年度臨時会員総会の打ち合わせを行った。(別紙資料12)
- 3) 3月15日(土)だより第550号発行予定
- 4) 3月16日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉県033)を開催予定。
担当：猪浦、佐瀬、伊藤(隆)、小林、土田、藤原、原

3 事業部

- 1) 2月6日(木)青年部研修会予演会を開催した。(別紙資料3)
- 2) 2月9日(日)ワークライフバランス推進委員会研修会を開催した。(別紙資料4)
- 3) 2月15日(土)埼臨技リーダーシップ研修会を開催した。(別紙資料5)
- 4) 2月21日(金)青年部研修会を開催した。(別紙資料6)
- 5) 2月27日(木)検査室管理運営委員会研修会を開催した。

4 学術部

- 1) 第1回編集委員会(メール会議)を開催した。(別紙資料7)
- 2) 埼臨技会誌Vol.71 No.3 3月15日に発行予定。

5 精度保証部 特になし

6 会計部

- 1) 令和6年度正会員費3名15,000円、入会金3名3,000円、合計18,000円の入金があった。
- 2) 日臨技より、日臨技生涯教育推進研修会助成金43,500円の入金があった。
累計493,000円/11回
- 3) 石井印刷に埼臨技だより第549号Web版8P 41,800円を支払った。
- 4) ウェスタ川越に令和7年度人材育成研修会施設利用料として69,600円を支払った。

7 精度管理委員会 特になし

8 一都八県会長会議 特になし

9 日臨技関甲信支部 特になし

10 日臨技 特になし

11 第53回埼玉県医学検査学会

- 1) 2月3日(月)第4回実行委員会が開催された。(別紙資料8)

Ⅲ. 承認事項

1 事務局

- 1) 会員動向(令和6年度分)

令和7年3月3日現在
会員数 3,617名[令和5年度会員数3,572名]
(新入会員292名)

賛助会員 72社 [令和5年度71社]

承認された。

2) 令和7年度理事会開催日程について

(別紙資料9)

上記の件について、濱本事務局長より「原則、毎月第2木曜日に開催としたい。」「8月・12月はWeb会議形式にて開催したい。」との発言があり、審議の結果、承認された。

2 総務部 特になし

3 事業部

1) JAMTISおよびZoom権限の付与「青年部峯岸委員長のJAMTISおよびZoom権限」について

上記の件について、塚原事業部長より発言があり、審議の結果、承認された。

4 学術部

1) 優秀論文賞の推薦について

(別紙資料10)

上記の件について、久保田学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。

5 精度保証部 特になし

6 会計部 特になし

7 精度管理委員会 特になし

8 第53回埼玉県医学検査学会

1) 第53回実行委員への学術権限取得について
上記の件について、三木総務部長より発言があった。審議の結果、個人情報扱うので限られた人数での付与であることを条件として、承認された。

2) 学会長印鑑の借用と使用許可について
上記の件について、三木総務部長より発言があり、審議の結果、承認された。

3) 学会長電子印鑑ファイルの借用と使用許可について

上記の件について、三木総務部長より発言があり、審議の結果、承認された。

9 関甲信支部・首都圏支部医学検査学会

特になし

IV. 議題

1 事務局 特になし

2 総務部 特になし

3 事業部 特になし

4 学術部 特になし

5 精度保証部 特になし

6 会計部 特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

あ と が き

だいぶ暖かくなった今日この頃ですが、どう過ごされていますか？

寒かった時期には家の中でぬくぬくと体を動かさず、怠惰な生活を送っていましたが花粉症ではない私は、外へ出て体を動かすにはよい季節になったと思います。

今年は昭和で考えると昭和100年にあたるそうです。

昭和生まれの私にとって感慨深いものです。

昭和にあったもので、今はなくなってしまったもの。

令和の現在にあって、昭和になかったもの。

思いあたるものがいくつかありますが、みなさんはどんなものが思い当たるでしょうか。

趣味の世界では、レコード、フィルムカメラなどがありますが、

実は今でも、細々とひっそりとマニアの愛好者がいらっしやるようです。

新しいものがどんどん出てくる時代ですが、私も昭和生まれの古い人間として細々とひっそりと生き残って行きたいと思います。

また、昭和の時代には考えられなかったものに生成AIがあります。

実はこの文章はChatGPTに書かせたものかもしれません……。

(三木 記)

